

第7号様式

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	第二借楽園ホーム		施設番号	1392900781
項目	前年度の評価結果に基づく現状分析 (令和4年度(2022年度))	改善計画 (令和4年度(2022年度)末時点)	実施状況(予定を含む) (令和5年(2023年)4月30日時点)	
施設と家族との関係性を深め利用者の生活を支えることについて	当施設ではコロナ禍であっても面会制限はしないという方針の下感染症予防対策を十分にとった上で、短時間の対面面会や窓越し面会など柔軟な対応をしている。また、コロナ禍前には施設として家族がカンファレンスへ参加することを推奨しており、いろいろ工夫した上で、栗80%の家族が参加している。 家族懇談会や家族満足度調査ができていないが将来的には行事の後に懇談会を設定して、ユニット毎に小ぢんまりと家族と職員との交流を図り、コロナ後、施設と家族との関係性をより深めて、ともに利用者の生活を支えて行くことが期待される。	面会制限はしない方針の継続および、家族懇談会の開催および家族満足度調査の実施	1 実施済み  ② 実施予定(令和 年( 2024 年) 7月頃)  具体的には以下のとおりです。  面会制限をしない方針については継続していた。一部施設内でのコロナクラスター発生時は面会制限を行った。 コロナクラスターの発生により家族懇談会は開催できなかった。しかし、地域行事としての芋煮会は開催した。次年度に向けて家族懇談会や気軽にご利用者とご家族が触れ合う行事の機会を設けていきたい。施設と家族との関係性を深め、ともに利用者の生活を支えていく役割を果たしたい。	
利用者の状態の変化に都度対応できる排泄支援の標準化について	日々の様子観察から利用者一人一人の排泄パターンを把握し、個別の排泄支援に取り組んでいる。併せて、臀部の状態観察や清潔の保持に努め、感染症対策や褥瘡予防につなげている。また、トイレでの排泄を促しており、声掛けや必要に応じての2名での誘導などによって対応している。排泄支援の取り組みとしてオムツゼロの取り組みが研修等でも実施されている。一方で、利用者の機能低下などによる状態の変化が大きく、アセスメントケアプランの見直しからも排泄支援の標準化が望まれる。	排泄支援委員会が中心となり排泄支援計画を基に多職種連携を図る取り組みを確実なものとする。具体的には排泄支援計画を居室担当から提出させ多職種で検討する仕組みを充実させる。	① 実施済み  2 実施予定(令和 年( 年) 月頃)  具体的には以下のとおりです。	
高品質なサービスを提供するための人材育成を目指しているについて	アクションプランによって目標指標内容・目標達成期間・目標基準値・目標値・結果の評価方法・スケジュールなどの進捗管理を行い、確実な目標達成につなげている。また、人材育成においては、課長や係長職のプロフェッショナル化は高品質な介護サービスを提供するためには必要不可欠であることを施設では認識している。自身の業績を上げつつ部下も指導管理し、組織の中で最も貢献度を期待される人材をプロのビジネスパーソンとして育成することを目指している。また、外国人労働者を受け入れおよび育成、確保を重要な課題としている。	それぞれのユニットのリーダーがそのユニットの職員に情報を共有し周知徹底させる働きをしっかりと認識し、確実なものとし、多職種と連携できるよう育成する。そのために、課長係長会議にて意識化を図る	1 実施済み  2 実施予定(令和 年( 年) 月頃)  具体的には以下のとおりです。  会議にて意識化を図ったが、意識改革までにはいたらず、より一層の働きかけが必要だと課題とする。	

※この様式は、「令和5年度(2023年度)八王子市地域密着型特別養護老人ホーム運営費補助金交付要綱」の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。